

平成23年9月27日

ロータリークラブ卓話要旨

演題

子どもは教えれば変わる 礼儀正しさのDNAは残っている

認定NPO法人マナーキッズプロジェクト

理事長 田中日出男

本日は、ロータリークラブにおいてご卓話の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。

1 マナーキッズ教室の内容

(1) 小笠原流礼法鈴木万亀子総師範による正しいお辞儀、挨拶の指導

マナーキッズ教室の内容ですが、初めに生徒に自己紹介をしてもらいます。全国どこでもそうですが、姿勢は悪く、小さい声で自己紹介します。その後に、小笠原流礼法鈴木万亀子総師範が正しいお辞儀・挨拶の仕方のご指導があります。姿勢を正して、お腹に力を入れて、胸にいっぱい空気を入れて、「よろしくお祈いします」と言ってからお辞儀をします。お辞儀は、頭を下げるのではなく。腰を折って、心を下げます。お辞儀が終わったら、やさしい顔で相手の顔を見ます。これを残心といいます。指導してもらったら、同様な方法で「ありがとうございました」を言ってからお辞儀をします。ショートテニスをやりながら2時限(90分)の間、「よろしくお祈いします」「ありがとうございました」と繰り返し「あいさつ」の練習を行います。子どもは10分毎に、姿勢がよくなり、声も大きくなり、変化していきます。

終わる頃には、親が自分の子どもかと思える程、姿勢が良くなって、声も大きくなります。子どもは、教えると変わることが出来る、また、礼儀正しさのDNAはまだ残っていると確信しております。

(2) 保護者への講話

イ 鈴木総師範の講話「家庭内の躰」

マナーキッズ教室では、子どもがプレーしている間に、保護者に対して小笠原流礼法鈴木万亀子総師範の講話があります。

まず、「朝起きて、誰が一番先に声をかけますか。」という質問を親にされます。殆どの場合お母さんが、「チャンおはよう、すぐに を用意しなさい。」とか言います。そうではなくて、挨拶というのは、目下から目上にするものですから、子どもから「おはようございます。」と敬語で言わせなさい。お母さんは、小さいお子さんであれば、料理等の仕事は止めて、子どもの顔を見て、「おはよう」で返したいものです。

「朝に見て、昼には呼びて、夜触れて確かめおかねば、子は消ゆるもの」と昔の人は言っていたとのことです。

まず、朝は子どもの顔を見て、調子を点検する必要があるという話をされます。

次に、「食卓では、子どもの髪をさわらないこと。」という話をされます。今、電車の中で、食事をしたり、化粧をしたりする風景が当たり前ようになっておりますが、公的な空間と私的な空間の区別がつかなくなっている原因も、そういうところにあるようです。

また、子どもを叱る際には、親は上座、子どもは下座ですれば効果があがるようです。

子どもにとって母親は愛情、父親は尊敬の対象になるわけですから、「夫の悪口は言わないで。“遅いわね、何をしているのかしら”と言うなら“お父さん大変ね。こんなに遅くまで。私ならこんなに遅くまで働けないわ”と冒頭に言葉を添えて下さい。母の唇からは、美しい言葉以外発しない、と決心なさって下さい。そうすれば子供は父親を尊敬するようになります。」という話もされます。

更に、学校へ行く子を見送る時も、玄関を出て、見送ってあげて下さいと言われます。

5, 6歩歩いたところで、“行ってらっしゃい、気をつけて”と声をかける。子どもは、まああるい、あたたかいものを抱いて出かけ、一日中その気持ちが持続するというのです。そういう愛情豊かに育ったお子さんは、ストレスに強い、いじめにあっても耐えることが出来るとのことです。

□ 目上、目下がない、みんながお友達・・・日本の教育現場

先程、鈴木総師範の、躰には、目上、目下の関係が欠かせないという話を紹介しましたが、東京都中央区立月島幼稚園でこういうことがありました。

園長先生が、マナーキッズ教室での園児の姿を見て、普段全く見せない表情だったとのことです。日本の幼稚園は全国全て、戦後、アメリカの教育理論を取り入れ、園長、先生と園児は対等、仲良くしましょうという路線で教育しているようです。マナーキッズは、そうではなく、園児は目下、従って目上の指導者に姿勢を正して挨拶するように指導します。その方が園児は正しい挨拶、礼儀作法を身につけるようです。「三つ子の魂、百まで」と言いますが、幼児での躰の重要性を痛感します。

八 筑波大学大学院大森 肇教授の講話「母の愛は脳を育む」「幼児期の言語機能に及ぼす模倣運動の影響」

鈴木総師範が、愛情豊かに育ったお子さんは、ストレスに強い、いじめにあっても耐えることが出来るとの話をされましたが、筑波大学大学院大森 肇教授(NPO 法人マナーキッズプロジェクト理事)によりますと、「母の愛は脳を育む」と述べられており、学術的にも証明されております。

ねずみの実験結果から、

幼少期に母親の十分な愛情を受けたネズミは、成長後に行動が落ち着き、過剰に攻撃したり怖がったりしなくなります。

また、ストレスを受けても、それに抗う力がつきます。

さらに、高齢期になっても、認知機能が低下しにくくなる。
と述べられております。

また、「幼児期の言語機能に及ぼす模倣運動の影響」という研究もされておられます。
今の子供達は、部屋の中でゲーム遊びばかりで、時間、空間、仲間の三つの「間」がない
ことから運動の機会が減っているとされておりまして、そのことから、体力・運動能力は
低下の一途を辿っておりますが、それだけでは済まずに、言語機能、即ち知能にも影響が
あるとのこと。3才の保育園児に週3回、模倣運動（真似をすること）するグループ
としないグループでは、言語機能の発達が違うとのこと。

従って、子どもの体力・運動能力の低下に何としても歯止めをかける必要があります

（二）子供のマナー低下は先進国共通の悩み

しかし、子どものマナーの乱れは我が国だけではないようです。

このプロジェクトでは、文部科学大臣杯マナーキッズテニス全国小学生団体戦を3年
間にわたって開催し、テニスの成績、マナー・ルールの順守度、感想文の内容、体力・
運動能力テストの結果を総合評価して、1大会4名程度の小学生を「マナーキッズテニ
ス大使」として、平成22年まではイギリス・ウィンブルドン、平成23年からはアメ
リカ、ニューヨーク州フロストバレーのサマーキャンプに派遣、現地で国際交流活動
を行っております。

試合に勝つだけでは、マナーキッズ大使には選ばれません。マナー、感想文、運動能力
に重きを置いて選考します。文武両道でなくては駄目というメッセージです。

マナーキッズ大使を英国に連れていき、そこで見聞しましたことは、子供のマナーの低
下は、イギリス、フランス、アメリカ等先進国はどこにおいても問題になっているよう
です。地域共同体の崩壊、宗教の影響力の低下等が原因のようです。

また、日本に小笠原流礼法という600年以上も続く礼儀作法の伝統があることに驚い
ておりました。従って、日本の伝統的な礼法とのコラボレーションをいかにするかがヒ
ントかもしれません。

3 マナーキッズプロジェクトの経緯

（1）平成8年 早稲田大学テニス部小学生テニス教室が原点

何故、マナーキッズプロジェクトをスタートさせたかですが、平成8年頃、会社勤めを
しておりましたが、人事労務の仕事をしておりました関係から、従業員同士が挨拶しな
くなった事に問題意識を持ち、「挨拶運動」を始めました。「挨拶通り」を作り、そこでは「明
るく、いきいき、さわやかに、常に挨拶しよう」と、幼稚園でやるようなことを会社でや
る必要がありました。どうしてかなあと思っておりましたところ、近くの小学校の校門で、
先生と生徒が挨拶をせずに校門に入る姿を目撃しまして、小学校で挨拶する習慣がないの
が原因ではないかと思いました。そこで、母校の早稲田大学テニス部OBに働きかけ、早
稲田大学テニス部小学生テニス教室を開始したのがきっかけです。

（2）平成16年4月 財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクト立ち上

げ

(3) 平成19年6月 NPO法人マナーキッズプロジェクト設立

既に、テニスで約51,000人、野球、サッカー、ラグビー、ミニバスケット、バレー、柔道、スナックゴルフ他で約14,000人、合計で650回、65,000人を超える幼稚園園児、小学生児童が参加しました。

(4) 品川区で予算化

小学校授業として取り上げられ29都道府県において170小学校・幼稚園で採用されています。平成22年度全国で初めて品川区が予算化しました。若月教育長が「市民科」授業として取り入れた理由として次のように述べられています。

「今のマナーの悪さの根本原因は、戦後一貫して取り進めてきた我が国の教育方針に根ざすものと言えます。」

「日本の教育学の歴史を考えると、どうしてもドイツなどの観念論が日本には入ってきました。その影響が強いのか、非常に形而上学的なのです。要するに観念的であり抽象論的であり、心構え論的なのです。教育にはいくつかの原理があります。その一つに「教育は他律による自律への促し」という原理があります。最終的には自律を目指すのです。すべからず全ての人間がその中で生きています。

今の現場の教員からは「他律」そのものにアレルギーを起こします。「子どもの持っている可能性を・・・」すでに形而上学的なのです。「子どもの意欲を大事にしよう」「子どもの発想を大事にしよう」「子どもの目線に立って」、これらは否定のしようがありません。

しかしそれに付随する具体的な戦略、方略、手段、方法を聞かれたとき、はたと現場は立ち止まってしまいます。そしてただ単に言葉のやり取りで終わってしまいます。その結果が今の子どもたちの公共心の低下、道徳性の低下につながっているのです。

このことを全く意に返さないで相変わらず「命を大切にしよう」「思いやりを大事にしよう」など、この世の中に通用しないような物語の話しを子どもたちに読ませる。それはそれで悪いとは言いませんが、重要なことはそれを実現させるにはどうすればいいかということです。

教育における他律による自律を考えたとき、マナーキッズの皆さんがやっておられるテニスならテニスを材料にしてマナーを教える、これはある意味では他律なのです。このような具体的な行動を通して子どもたちにマナーや礼儀を自然な形で伝えていく、こういったものを基本に置かなければ、いくら尊く気高く美しく涙あふれるお話しを子どもたちが教室で聞いても、何のリアリティーもありません。」

(5) 中学校での指導

全国どこでも中学生のマナー指導にご苦労されています。

校長先生が演壇に立っても生徒は座ったままです。話を聞いていない生徒も多い。女子中学生の中には股を開いて座っているものもありました。中学生はある意味ですでに大人の領域に入っています。彼らにどのようにマナーを教えるのかを考えておりました。

品川区の7年生対象に2校開催しました。一校は、何をいっても言うことを聞いてくれま

せん。一列に並ばせるだけで5分位かかります。中学生には、マナーキッズは効果ないのでとあらかじめおりました。もう一校はきちんとするのです。そこでは、小学校の時にマナーキッズテニス教室を体験していたのです。幼稚園・小学校と逐次マナーキッズ教室を授業として取り入れて行けば、中学生になった時点で変化していると期待しております。

(6) 東日本大震災被災地でのマナーキッズ教室の開催

画面をご覧ください。平成23年6月26日(日)に仙台市の避難所においてマナーキッズテニス教室を開催しました。

仮設住宅にショートテニス用具を寄付し、仮設住宅にお住まいの方々に「体」を動かすきっかけにして頂きます。また、近くの幼稚園、小学校において開催するマナーキッズテニス教室に指導者としてご参画頂き、子ども達と一緒にショートテニスを楽しみながら「精神」を動かして頂きます。

3 ロータリークラブ皆様へのお願い

(1) 地区全小学校での展開にご尽力を

国際ロータリークラブ第2590地区(横浜、川崎地区)第1グループにおいては、ロータリークラブの全面協力のお陰で、川崎市立日吉小学校、宮前小学校、旭町小学校、夢見ヶ崎小学校、川崎小学校の5小学校で体育・道徳融合授業の支援事業を行ないました。

地区においても、その輪を拡げて頂きたいと思えます。

といいますのは、学校というのは、保守的な体質があるようで、なかなか新しいことに取り組むことに躊躇があるようです。民間会社なら、どこかで優れた手法が開発されれば、真剣に真似をすべく勉強しますが、学校は、“いいこと”を真似することに躊躇する体質があるようで、なかなか“いいこと”が伝播しません。

ロータリークラブのメンバーは当該地区で影響力のある方ばかりです。そういう方のご助言があれば、学校側は受け入れ易いようです。皆様方のご尽力により、宇都宮地区全小学校における開催を切望します。

ロータリアンの方々が近くの幼稚園・小学校に出向いてマナーキッズ教室の指導者、運営者として汗をかいて欲しいと思えます。

(2) 地域ぐるみ挨拶運動への展開

マナーキッズテニス教室は、29都道府県、170小学校・幼稚園において、体育・道徳関連授業に採用されましたが、その中、38小学校は、北九州地区です。校長先生の口コミでどんどん広がっております。福岡県遠賀郡岡垣町は、人口5万人の町ですが、全5小学校の全校生徒がマナーキッズテニス教室を受講しました。

そうなりますと、行政の方も何とか変わらなければということで、平成21年11月11日に町役場の人を中心に「行政サービス上のマナー」という演題で鈴木総師範が講話をされます。

岡垣町ぐるみで「挨拶運動」に広がることを期待しております。

日本のどこの小学校においても、不審者の校内侵入による暴力事件から、見知らぬ人に

は挨拶をしないように指導しているとのこと。そうすると、子どもは俯き加減に歩くようになります。そうではなくて、町中の人々が挨拶することで、子どもが胸を張って歩けるようにしたいものです。

地区において、中学校の学区でマナーコミュニティ活動を展開して頂きたいと考えております。

(3) ご寄付・ご支援のお願い

本プロジェクトは、全て企業・個人よりの寄付金及び正会員・賛助会員の会費で運営しております。年間約 2,600 万円です。昨今の不況の影響で企業からの寄付金が減少しております。是非、ロータリークラブのご支援と個人の皆様の正会員・賛助会員のご入会をお願いいたします。

チラシを封筒に入れております。当 NPO 法人の趣旨及び事業内容にご賛同、ご協力頂ける個人・法人の皆様には厚いご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成 22 年 3 月国税庁から認定 NPO 法人の認証を受けました。約 42,000 団体のうち、190 団体だけです。寄付金、相続税等が、免税措置が受けられます。

平成 23 年度の税制改正により、個人寄付の場合、寄付金から 2,000 円を差し引いた額の 40% が税額控除されることになりました。

先般ファンドレイジングの講演会がありました。ユニセフとか難民支援等に随分多額の寄付が集まっておりますが、それも非常に大事とは思いますが、我が国の次世代を担う子どもが病んでおります。遺言、相続、香典含めて次世代の健全育成のためにご支援賜れば幸いです。寄付金は相続税が免除されます。

マナーキッズ・ウイル・プロジェクトを立ち上げました。元全日本テニス女子チャンピオンの宮城黎子さんは、86 歳でお亡くなりましたが、遺言でマナーキッズプロジェクトに多額のご寄付を頂戴しました。サインとメッセージの入ったミニチュアボールを作成し、1 個 400 円以上のご寄付を募集しております。(本日ミニチュアボールを持ってきております。お孫さんのお土産にご寄付頂ければ幸甚です。) 第 2・第 3 の宮城黎子さんが出ることを期待してのプロジェクトです。チラシを同封しております。

また、マナーキッズポイントカードを発行しております。失効ポイントが NPO 法人に寄付されます。人形町で 3 店舗加盟しました。お知り合いの店舗をご紹介賜れば幸甚です。

(4) 終わりに

我々の活動は、「太平洋のゴミ拾い」と言われておりますが、「琵琶湖のゴミ拾い」になるためには、もっとマナーに対する「国民的関心」を呼び起こすことも欠かせません。そのためにも、マナーキッズが全スポーツ、文化活動に行き渡る必要があります。

かつて我が国を訪れた世界各国の人々は日本人の礼儀正しさ、立ち居振舞いの素晴らしさに感嘆の声をあげたとのこと。何故、このように変ってしまったのでしょうか。

ここ 100 年の間に、3 回、即ち、明治維新、敗戦、そしてバブル期、日本の伝統的な良さをなくしてしまった当然の帰結という見方もあります。100 年の間に 3 回もその国

の良さをなくしてしまった国は他にないようです。

また、戦後の民主主義の教育を受けた世代があらゆる分野、あらゆる所において指導的役割を担う時代を迎えておりますが、子供の幼児期、児童期に「躰」「基本的マナー」という大事なことに家庭、幼稚園、学校、そして地域社会が戦後以来ずっとなおざりにしてきたこともマナーの乱れの一因ではないでしょうか。

百数十年の間に3回、日本の伝統的な良さを否定した「つけ」がまさにきているわけで、並大抵ではありませんが、スポーツ、文化などいろんなところで種を蒔き、マナーに対して関心を持つ。マナーキッズを通じて子どもが変わる、変わった子どもの姿を見て、指導者のシニア、学生も変わる、保護者、先生も変わる、コミュニティも変わる、時間はかかりますが、実行すれば人は必ず変わると確信しております。ロータリアン皆様方のご支援を切にお願い致します。

何卒よろしくお願いいいたします。ありがとうございました。